

ピースウィンズ・ショップから

新商品が続々登場
東ティモール産コーヒーもリニューアル

PWJが運営するオンラインショップ「ピースウィンズ・ショップ」では、東ティモール産コーヒーをはじめとするフェアトレード商品、エコグッズなどを販売しています。

このラインナップに、新商品がたくさん加わりました！ 前回ご紹介した「ルワンダ産ピースコーヒー」の販売がいよいよスタート。スタッフが支援の合間に撮影した、世界の子どもの笑顔が満載の「PWJオリジナルカレンダー2010年版」、季節のご挨拶に欠かせないフェアトレードの「お歳暮／ウインターギフト」、冬季限定の「フェアトレードチョコ各種」など、気になる商品が続々と登場しています。

いつもご愛顧いただいている「東ティモール産ピースコーヒー」もリニューアル。酸味を抑えるために焙煎度合いを変え、パッケージには品質劣化の原因となるガスを外に出すためのバルブをつけました。よりおいしくなった東ティモール産ピースコーヒー、ぜひお試しください（生産者からの豆の買い取り価格上昇などに伴い、価格は据え置きますが、1パックの量を250gから200gに変更させていただきます。ご了承ください）。

ご注文は、<http://www.peace-winds.org/shop/>
またはTEL03-6438-9403、FAX03-5786-7782まで。

事務所移転に伴い連絡先が変わりました。ご注意ください。

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの国際支援活動に活用されています。

支援地レポート

ミャンマー

2008年5月に発生したサイクロン「ナルギス」で被災した僧院の修復工事が完成しました。信仰心の強いミャンマーユーにとって「心のよりどころ」となるだけでなく、災害時の避難場所にも使える施設として、村人たちは完成を喜んでいます。この僧院修復の完了をもって、PWJのミャンマー支援は終りました。



アフガニスタン



昨年は2000年以来最悪の干ばつでしたが、今年春には洪水が発生し、PWJが水資源調査のために設置している水位計も被害を受けました（9カ所中5カ所）。河川の流量を測る水位計は、今後、灌がいを導入し生産量を上げるための農業計画を立てるのに欠かせません。治安をにらみながら、雨期前までに修復しようとしています。

スチダン

2009年5月から建設していた診療所が完成し、10月1日に開所式を行いました。州の保健相をはじめ、援助機関の代表者、地元の人びとが多く参加。新しい医療拠点の開設を祝いました。PWJスチダン現地代表の備中哲人=写真右側や関係者らによるスピーチのほか、地元住民による劇と踊りのパフォーマンスが行われました。



ピースウィンズ・ニュース



スマトラ島沖地震緊急報告

家地を滑 飲み込んだ 飲りんがだ



9月30日、インドネシアのスマトラ島西部沖でマグニチュード7.6の地震が発生。多くのビルや家屋が倒壊し、死者は1100人を超みました。ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）は10月2日にスタッフ2人を派遣し、食糧の緊急配布と、支援計画を立てるための調査を行いました。被害がとくに大きかったのは、大都市から離れた山あいの村々。調査に赴いた山元めぐみが目にしたのは、家々を飲み込んだ地滑りの恐ろしさでした。

息をのむ光景が広がった。地滑りで山の斜面がぼっかりえぐられ、ヤシの木や田んぼの鮮やかな緑のなかに茶色い地肌をさらしている。斜面にあったという家々は土砂に飲み込まれ、跡形もない。なお土砂の下にいる人を救出しようと、警察官や村人が懸命に作業していた。しかし、地震後6日を過ぎてはその努力もむなしく、私がいた短い間にも3人の遺体が発見された。

近くに土砂の直撃を免れた家があり、崩れた内部には華やかな垂れ幕が見えた。地震が起きた日にちょうど結婚式が開かれていて、祝福に来た人も大勢被害にあったという。直前まであった幸せな日常を思うと、目の前の惨状に余計に胸が痛んだ。

（スマトラ島沖地震調査チーム 山元めぐみ）

※情報は原則として10月26日現在。

peace winds
JAPAN

支援のプロを、
世界の現場へ



インスタント麺、魚の缶詰などを緊急配布

スマトラ島沖地震への緊急対応として、PWJは被災状況やニーズの調査と並行し、パダン・パリアマン県の13の村に食糧を配布しました。配ったのは、インスタント麺21000食、コメ500キロ、魚の缶詰1440個、飲料水5280本。10月5日から7日にかけてパダン市内の卸問屋などで買い付け、トラックで約2時間かけて村まで運びました。

調査に訪れた村では、どこも被災者の食糧確保が大きな課題でした。個人の支援者によるごく少量の食糧しか届いていない村もあり、特に主食であるコメや麺は、多くの村で必要な物資の筆頭に挙げられました。各国から駆けつけたNGOや国連機関は本格的な支援に向けて情報収集を急いでいましたが、PWJは組織的な食糧配布が始まるまでの間を被災者がしのげるよう、素早い対応が必要と判断しました。

配布は連日、夜になるまで続きました。暗闇の中でトラックが村に着くと、子どもを含むたくさんの村人が集まり、荷降ろしを手伝いました。支援を心待ちにしていた様子がうかがえました。

インドネシアのNGOと協力し復興支援へ

PWJは初動調査の結果をふまえて、インドネシアのNGO「ビナ・スワダヤ (Bina Swadaya)」と協力して復興期の支援活動にあたる方針を決め、具体的な事業の内容を話し合っています。

ビナ・スワダヤは40年以上の歴史を持つ、インドネシアの代表的なNGO。農業ビジネス支援やマイクロファイナンス（小額融資）などを通じたコミュニティ開発に力を入れています。PWJは2003年、スマトラ島・アチェ州からの避難民をジャワ島に再定住させる事業でビナ・スワダヤと連携した実績があります。今回の調査でも協力を仰ぎました。

これまでの協議のなかで、復興期の支援の分野として主に想定しているのは1.住居の修復・再建、2.被災者が生計手段を確保するための支援です。住居の修復・再建ではなく、日本の進んだ耐震建築のノウハウを現地に合った形で生かすため、専門家派遣などの協力を要請されています。今後、その点を含めどんな連携ができるかを検討し、できるだけ早く支援の計画を具体化する予定です。

調査に訪れた村の人びと



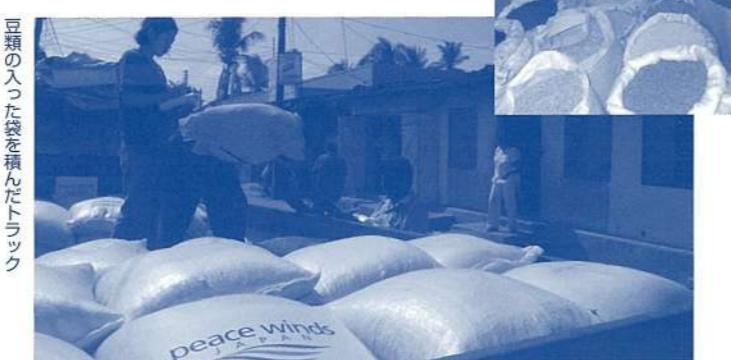
スリランカ緊急支援 食糧配布と給水を開始

スリランカの内戦による国内避難民を支援するため、PWJは10月1日、東部トリンコマレのブルムダイ避難民キャンプの住民3709人に対する食糧配布を始めました。キャンプでは、米や小麦粉などの主食は国連世界食糧計画（WFP）が提供していますが、副食の野菜、魚などを支援する団体が必要とされました。そこでPWJはこれらの食材を調達し、キャンプに届けています。

各テントで調理するには燃料の薪が足りないため、キャンプ内に数ヶ所の共同キッチンが設けられ、避難民のなかから選ばれた調理ボランティアが料理を作っています。なかでもカレーは定番メニュー。PWJは豆やジャガイモ、ナスなどの野菜に加え、鮮魚、干し魚、卵、ココナッツ、スパイスなどを買い付け、トラックで約3時間かけてキャンプまで運びます。最近は「野菜のバラエティを増やして」「ニンジンはすぐに傷むから、量を減らして他の野菜を入れてほしい」など、前回配った食材に対するコメントや要望が寄せられるようになりました。

PWJは現地政府と協力し、給水車2台による飲料水の支援も行っています。しかし、避難民の受け入れが始まって半年近くたった今も水の不足は深刻で、キャンプを訪れるたび住民から要望が出ます。キャンプ周辺はもともと水源が十分でないうえ、特に今年は少雨のため干上がってしまったところもあるようです。

日陰の少ないキャンプには太陽が容赦なく照りつけ、熱風が吹きます。連日の炎暑は、長期化する避難生活に厳しさを加えます。PWJは食糧と水の支援を通じて住民の負担を少しでも軽減したいと考えています。



25年以上の内戦が2009年5月に終結

スリランカでは、多数派シンハラ人（仏教徒）の政府に対し、少数派タミル人（ヒンドゥー教徒）の反政府組織「タミル・伊拉ム解放のトラ」（LTTE）が武装闘争を繰り広げ、25年以上にわたって内戦が続いた。インドの介入やノルウェーの調停による一時的な停戦はあったが、いずれも長続きしなかった。2009年5月、LTTEの実効支配地域のほぼすべてを政府軍が制圧し、LTTE側も戦闘放棄を発表、ようやく内戦が終結した。主な戦場となった北部州では、国内避難民が約28万人（国連難民高等弁務官事務所などの発表）にのぼっている。

※PWJのインドネシア・スマトラ支援事業およびスリランカ支援事業は、支援者のみなさまからの会費・寄付のほか、ジャパン・プラットフォームの協力も得て進めています。

支援縮小のなか、重み増すPWJの活動

PWJスリランカ事業現地代表 明城徹也

6月の現地調査の際、避難民は口々に「早く村に帰してほしい」と訴え、まだキャンプ生活になじんでいない様子でしたが、最近は落ち着いてきたように見えます。一方、キャンプがいつまで存続するか見通せないなか、NGOなどの援助団体はブルムダイの避難民に対する支援を縮小し始めています。食糧支援も以前は4つのNGOが担当していましたが、現在はPWJともう1団体だけ。その団体も11月いっぱいでの縮小・撤退を検討しています。支援が長引いてきたことによる資金の枯渢などが背景にあるようです。

PWJは撤退する団体の後を引き継ぐ形で支援を始めました。ビザの手続きやスタッフの採用に予想以上に時間がかかりましたが、支援の空白を生じさせてはならないというプレッシャーのなかで、他団体の協力も得てどうにか支援開始にこぎつけた、というのが実感です。今後、国際社会による避難民キャンプ支援の縮小が進むとみられ、PWJの活動の意義がますます重くなると感じています。

スマトラ、スリランカ支援 緊急募金

PWJは、スマトラ島沖地震支援とスリランカ支援の緊急募金を行っています。詳しくはホームページまたはお電話0120-252-176（通話料無料）で。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：ピースウィンズ・ジャパン

※通信欄に「スマトラ」または「スリランカ」と明記してください。

【銀行口座】

銀行名：三井住友銀行青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

※銀行からの寄付は、PWJの活動全般への支援となります。

※領収書が必要な場合などはご連絡ください。

【ホームページ】

<http://www.peace-winds.org/>

※「寄付をする」ボタンをクリックしてください。

ピースウィンズ 検索



携帯からはコチラ

東京事務所移転のお知らせ

PWJは東京事務所を渋谷区笹塚から港区南青山に移転しました。11月4日に業務が始まった新事務所は、地下鉄の表参道駅（銀座線、半蔵門線、千代田線）から徒歩約5分。一段と交通が便利になり、より多くの方との出会いが生まれることを期待しています。住所、電話番号、ファックス番号は変わりますが、フリーダイヤルとメールアドレスには変更はありません。

PWJ新事務所

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-37

第二宮忠ビル7F

TEL : 03-6438-9401

FAX : 03-5786-7781

フリーダイヤル : 0120-252-176

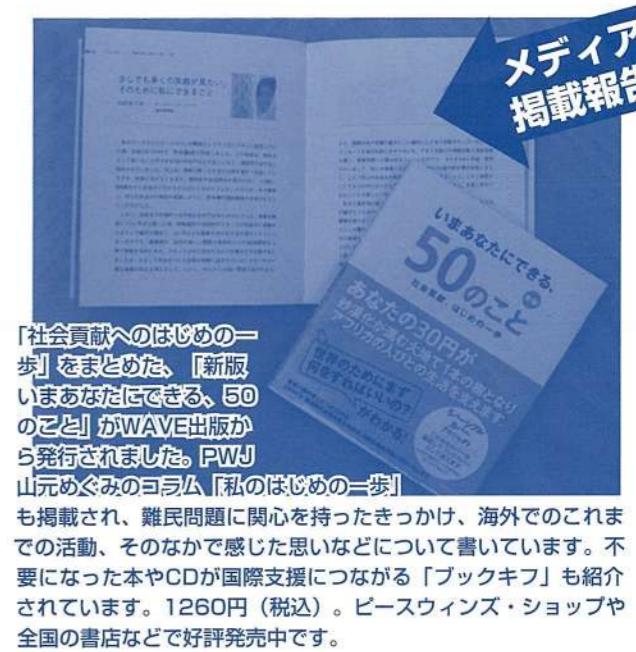
e-mail : meet@peace-winds.org

注目されない危機にこそ

インドネシア・スマトラ島沖地震の緊急募金では、発生直後から多くのご寄付をいただきました。ありがとうございました。また、台湾の台風災害支援にもご賛同をいただきました。地震をはじめとする災害支援では、他人事と思えない感覚が強く、その反響の大きさには胸を熱くさせられます。

一方、今回のニュースレターで紹介させていただいたように、PWJは同じ時期に、スリランカで緊急の水・食糧配布を開始しました。スリランカでは長く続いた内戦が今春、やっと終結したものの、戦乱を逃れた国内避難民のキャンプ生活は今なお過酷です。PWJはメディアなどの注目が集まらず、困難な状況が続く地域での活動にも力を入れています。ぜひご協力ください。

メディア
掲載報告



「社会貢献へのはじめの一歩」をまとめた、「新版 いまあなたにできる、50のこと」がWAVE出版から発行されました。PWJ

山元めぐみのコラム「私のはじめの一歩」

も掲載され、難民問題に関心を持ったきっかけ、海外でのこれまでの活動、そのなかで感じた思いなどについて書いています。不要になった本やCDが国際支援につながる「ブックキフ」も紹介されています。1260円（税込）。ピースウィンズ・ショップや全国の書店などで好評発売中です。

